

昭和55年6月10日(1980)

No. 198

大豊町の概要

位置 東経133度37分 北緯33度56分
面積 320.54平方ヘクタール 東西 32ヘクタール
南北 28ヘクタール 部落数 86
人口 10,106 男 4,797 女 5,309
世帯数 3,483(4月末日現在住民基本台帳調)



昭和55年6月10日発行

全世界配布
編集 館報大豊編集委員会
発行 大豊町中央公民館
印刷 高知印刷株式会社



川口南団地に完成したカタオカ工芸の新社屋。工場全景



出を待つ子供たち



落成式であいさつする社長

「岩原神楽」国の重文指定報告祭

子供たち新緑の境内で神楽を熱演



双刃の舞。力強く

示によって、国の重要無形民俗文化財に指定されたことは、すでに先の館報でお知らせしたところですが、岩原部落ではこの報告祭を去る十二日、部落をあげて、新緑香る岩原神社の境内で、この日のために、眼たい目をこすって練習に練習をつんで來た。小中学生が伝統ある岩原神楽を熱演



おじいさん暑いでしょう、日傘をどうぞ「のさ」の舞



むつかしいへギの舞をみごとに

部落内の小中学生十三人を対象に特訓を重ね、この日の報告祭も子供達を中心に行われた。双剣の舞は今までに十二、三種類をマスターするまでになり、子供達の上達の速さに、見物の人達も驚きの声をあげながら見守っていた。清楚な白の袴姿に、赤い襷が、新緑に映えてひとときわ、美しく、遠くから伝わった、先人の文化遺産が、土地の人々によつて、素朴な信仰行事となり、一方こうした保存の方々の努力によって、永遠に受け継がれようとすることに心から敬意と感謝の念をささげながら、ここにあらためて神楽の重文指定の意義をかみしめた。

力が実ってうれしい、雇用機会を増すためにもさらに積極的に企業誘致を進めたい、又第一号となった「カタオカ工芸」社長の英断をたたえた。一方社長の片岡俊仁氏は、工場建設が地域に力強い支援がある第三の工場誘致も決定して、すでに同団地には、新しい製品が次々と製造されている。門田町長は、挨拶の中で「永年の誘致の努力を感じられる。いい町づくりへの息吹きが

（二千六十坪）の最新設備を含む四十余名の従業員で、すでに操業を開始している。門田町長は、挨拶の中でも「永年の誘致の努力を感じられる。いい町づくりへの息吹きが

機会を増すためにもさらに積極的に企業誘致を進めたい、又第一号となった「カ

タオカ工芸」社長の英断をたたえた。一方社長の片岡俊仁氏は、工場建設が地域に力強い支援がある第三の工場誘致も決定して、すでに同団地には、新しい製品が次々と製造されている。門田町長は、挨拶の中で「永年の誘致の努力を感じられる。いい町づくりへの息吹きが

機会を増すためにもさらに積極的に企業誘致を進めたい、又第一号となっ

た「カタオカ工芸」社長の英断をたたえた。一方社長の片岡俊仁氏は、工場建設が地域に力強い支援がある第三の工場誘致も決定して、すでに同団地には、新しい製品が次々と製造されている。門田町長は、挨拶の中で「永年の誘致の努力を感じられる。いい町づくりへの息吹きが

た。豊永小学校の協力のもとに、この日の記録もビデオにパッケージ納められた。

五百以上の歴史をもつこの神楽は、岩原の由来、四季などをつづった、散華

という謡と神楽を櫛屋でも舞うのが特徴とされ、部落

には今でも「神御子」とし

て神に直接仕える制度が残

っている。中でも「散華の

舞」は高知県でも類例を見た。豊永小学校の協力のない貴重なものである、生み

いわば、岩原・永瀬神楽が

の歴史とも言える

重文指定を機会に、保

存会（下村桂会長）は、本

格の後継者対策に着手、

木啓夫先生は当日の祝賀会

の席でその感想を述べられ

た。重文指定を機会に、保

存会（下村桂会長）は、本

格の後継者対策に着手、

し、神前にそ

告を行つた。

国は重文指定となる、生み

いわば、岩原・永瀬神楽が

の歴史とも言える

重文指定を機会に、保

存会（下村桂会長）は、本

格の後継者対策に着手、

木啓夫先生は当日の祝賀会

の席でその感想を述べられ

た。重文指定を機会に、保

存会（下村桂会長）は、本

格の後継者対策に着手、

